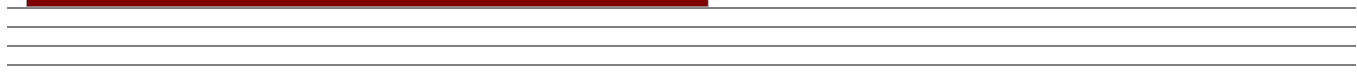


栃木刑務所講演会資料

学んだことを自分のことばで言える(表現・説明・用いることができる)ようにしましょう!

—多様な選択肢のある人生を歩むために—

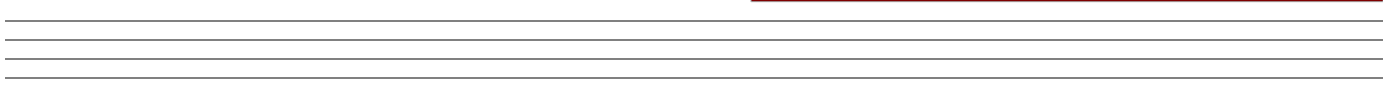


2026年4月20日(月)

9時30分～10時00分



開倫塾
塾長 林 明夫



Q : 「学力」とは何ですか。

- A : (1) 「学力」とは、読んで字の如く、「学ぶ力」。
(2) 「自分で学ぶ力」とは、「自分から進んで学ぶ力」「主体的に学ぶ力」。
(3) 具体的に言えば、「自己学習能力」と考えます。

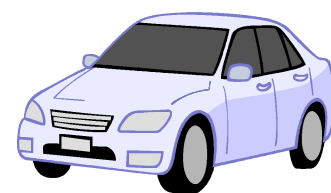


Q : もっとはっきりいえば、「学力」とは何ですか。

- A : (1) 「学んだことを自分のことばで言える(表現・説明・用いることができる)力」と考えます。
(2) なぜか。折角大切なことを学んでも、それを「自分のことばで言える(表現・説明・用いることができる)」ようになっていないと、役に立たないからです。
(3) ですから、皆様はこれからいろいろな機会学ぶ場合には、「学んだことを自分で言える(表現・説明・用いることができる)」ことを、是非、目指してください。

Q : 「学んだことを自分のことばで言える(表現・説明・用いることができる)」力が身につくと、どうなりますか。

- A : (1) 「多様な選択肢のある人生を歩む」ことができるようになります。
(2) 例えば、自動車の運転免許証を取るために、自動車のしくみや交通法規、どのようにすれば安全に、また、快適に運転できるかを学べば、安全、快適に自動車を運転するという「人生の選択肢」を得ることができます。
(3) 免許を持たずに運転すれば、無免許運転として罰せられます。免許を持って運転していても、安全に運転することができなければ、事故の原因となります。
(4) また、折角「スマホ」があっても、スマホの「仕組み」や「使い方」がわからなければ、「スマホ」を使うことができません。そこで、スマホの仕組みや使い方を学んで、「学んだことを自分のことばで言える(表現・説明・用いることができる)」ことが求められます。
(5) このように、学校や社会で「大切なことを学び」、「学んだことを自分のことばで言える(表現・説明・用いることができる)」ことになれば、「多様な選択肢のある人生を歩む」ことができます。



Q : それではお聞きします。どうすればそのような意味での「学力」「学ぶ力」が身につきますか。「学んだことを自分のことばで言える(表現・説明・用いることができる)」ようになるためには、何をどうすればよいのですか。

- A : (1) 「効果の上がる勉強の仕方」を学ぶことです。
(2) つまり、「予習の仕方」「授業の受け方」「復習の仕方」「定着の仕方」「応用(テストでよい点数を取る仕方、社会で役立つ仕方)」を学ぶことです。
(3) ① 「予習」とは、先生による「授業」の前に「テキスト」や「資料」、「問題集」などを、「予め」自分の力で「学ぶ」「習う」ことです。
② テキストなどを一語一語しっかり読み、少しでもわからないことばや読めないことばがあったら、辞書や参考書、インターネットなどを用いて調べる。
③ 辞書などで調べたことは、「意味調べノート」に書き写して、その場で読み方、意味、書き方を正確に覚える。
④ 計算や問題は、自分の力でよく考え「ノートに解く」。



⑤そして、「何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨む」。

これが予習です。

○この予習の仕方をしっかり身につければ、先生がいなくても「自学自習」できるようになります。自分一人の力で勉強ができるようになります。社会に出てからは、先生がいなくても多いので、先生から学ぶことができる間に、「予習」の習慣を身につけておくことをお勧めします。

(4)「授業中」は先生のお話をよく聞き、大切なことは、メモ・ノートにしっかり取ること。

○社会に出て最も大切なことは、「大事なことをメモ・ノートし続けることができる能力」、「メモ・ノートしたことを整理して、仕事などに活かす、役立てる」ことです。

○「大切なことをノートし続ける、メモし続ける」こと、「ノート・メモしたことを整理して役立てる」ことは、極めて高い言語能力として、高く評価されます。

*英語やフランス語、スペイン語の授業でノートが取れるか考えてみれば、よくわかります。

(5)「予習」をし、「授業」を受けたあとは「テキスト」や「授業ノート」を「復習」。「もう一度学び直す」ことが、「理解」するのに欠かせません。「計算や問題」は、もう一度やり直すことも大切な「復習」です。

(6)「復習」し、内容が理解できたら「テキスト」や「授業ノート」、「問題集」をスミからスミまでしっかり「覚えること」「定着」させることが大切です。

①定着のためには、次の「3つの練習(定着のための3大練習)」が欠かせません。

(ア)スラスラよく読めるようになるまで、声を出して読む「音読練習(英語は発音練習)」。

・大切なことは何も見ないで言えるようにする「暗唱」。

(イ)学んだことは、書き順も含め、すべて正確に書けるようにする「書き取り練習」。

・大切なことは、何も見ないで全部書けるようにする「暗記」「暗写」。

(ウ)学んだ計算や問題は、計算や問題を見た瞬間にパッパッと条件反射で正解が出るまでにする「計算・問題練習」。

「定着のための3大練習」は、「不可能を可能にする」

(7)「応用」とは、「テストでよい点数(満点や合格点)を取ること、社会で役立てること」を意味します。

①「テスト」で「よい点数(100点満点、合格点)」を取るためには、「テキスト」「授業ノート」「教材・問題集・参考書」などをスミからスミまで覚えることが第一。

②過去に出た問題を10年分以上を繰り返し解き直すことが第二。

③社会で役立てるためには、学校や社会で学んだ「テキスト」「授業ノート」「参考書」「地図帳」「年表」「辞書」などしっかり保存し、折に触れて学び直すこと。一生かけて学び直すことが最も効果的です。



Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)そうはいっても、テキスト、教材、参考書、資料集、問題集などに書き記してあることが読み解けなければ勉強は前に進みませんので、「読解力」が絶対に必要です。

(2)「読解力」を身につけるのに役立つのが、「辞書、新聞、読書、図書館」の4つです。

(3)この4つに慣れ親しんで毎日活用してくださいね。



以上